

SSKU **2017年度**
お元気ですか?
イリアンソス
です。



PAGE

03 特集 地域とつながる

PAGE

02 理事長の散歩道

PAGE

06 “イロイロ”イリアンソス(活動報告)

PAGE

07 がんばれ！イリアンソス

理事長の散歩道
社会福祉法人イリアンソス 理事長 磯部光孝

緊急事態が続く

今年度は、わが法人もスタッフの人材不足が加速しており、通所や生活寮の運営に影響が出てきてしまっています。特に生活寮のスタッフ体制を確保することが大きな課題となつていきます。実際に親御さんが亡くなつて帰る自宅がない利用者もおお、彼らの365日の生活を支えていかなければなりません。法人全体でスタッフ募集を行っていますが、なかなか女性の夜勤勤務の応募がなく苦慮しているのが実態です。生活寮の職員は、利用者が不安にならないよう頑張ってくれています。通所の職員も生活寮に応援に行きます。そんな中、わたしも、職員の負担を少しでも減らすために協力しています。月2〜3日生活寮かせて夜9時から朝7時までの勤務です。わたしが支援に入る9時には、ほとんどの利用者の方はもう部屋に入つて落ち着いていることが多いです。2014年に生活寮にじ・かぜが開設して、早5年が経ちます。みんなにも生活寮の生活に慣れてきたんだなあとみなさんの姿を見て感じました。わたしは、利用者のEさんの支援が中心です。Eさんが落ち着いて寝ていければ、見守りのみの支援になります。

暮らしの場の雰囲気

生活寮の夜は意外と静かです。それでも、夜中にドタバタと動き回るYさん、シヨート利用のKさんは床をダンダンと2時くらいまで叩いて、自分の要求を伝えています。そんな騒音でも、それ以外の利用者は落ち着いてゆつくり寝ています。

朝7時から朝ごはん。賄いさんが6時ころから朝食の準備でコトコト調理をする音が心地よいです。朝ごはんは、台所にあるカウンターで食べる方、自分の部屋で食べる方とそれぞれのスタイルで食事をとりまします。

Eさんとは、活動センターかなえの旅行でも一緒にになりました。富士山の麓の旅行です。そのときの食事は、スタッフが交替してEさんが席を立たずに食べられるよう支援しました。しかし、生活寮では自分でスタスタとカウンターの席に座ります。そして、食事しやすい姿勢を保つための台があり、その上に朝食の入ったお盆をのせ食べます。ちよつと驚きました。席を立たず食べ、お椀の食べ物がないとしくつかりお椀を見せません。少し食べ物が残っていれば、Eさんは自分で食べます。おめてあげれば、Eさんは自分で食べます。お味噌汁もここにあるよと声掛けだけでした。自分で食べているのです。事業所と生活寮でのEさんの姿がとても違うのです。のぞみの家に通っているSさんもそうです。

朝、自分の部屋から出てきて、わたしの姿を見てわたしの手を引っ張って自分の部屋につれていきました。なんだろうと思つてEさんの顔を見てみるとテレビのほうを見ているんです。ああテレビを映してほしいんだなあと、思い、テレビのスイッチを付けました。テレビがつくと満足そうな顔をしているのです。そして、わたしの役割は終わりです。言葉もなくなかなか彼の要求が分からないことが多いのですが、この時はとつてもわかりやすいSさんでした。

他のみなさんも寮に入ったばかりの姿と比較するととても落ち着いて暮らししているように見えます。事業所に比べ7人という少ない人数もこの落ち着きの要因の一つなのかなとわたしは思っています。暮らしの中で、事業所で頑張っている姿、生活の場でのんびりと自分らしく暮らししている姿、利用者の方たちのいろいろな姿を見られ、この仕事の面白さをとつても感じます。

こうした障害のある人たちの暮らしを支えていくためにも、支援をする人が必要です。30年前と比べるととても充実してきた職場になつていきます。これからも障害福祉を進展させていくためにも一緒に働いてくれる人材を探しています。ぜひ、働ける時間がありましたら一緒に障害のある人を支えていきましよう！



特集



～地域とつながる～

今回の特集は
『地域とつながる』

資源回収や広報紙、情報誌『ぱど』を配る仕事・リサイクル店・物品の販売など、私たちは様々な仕事に取り組んでいます。

資源回収では、毎週、資源を用意して下さる方がいたり、物品販売の時には毎回注文を下さる方がいたり、日々の活動を支えていただいています。

仕事だけではなく、レクなどの活動中に声を掛けて下さり、温かい目で見守って頂いていると実感できることも多くあります。そんな色々な場面のつながりを紹介します。

楽しい活動の中から

なかまの家のレクリエーションで、モノレールに乗って、食事とショッピングを楽しもう！という企画の時です。食事中から雷が鳴り始め、そのうち大雨になってしまいました。小雨になるのを待ち、モノレールの駅へ移動中、車い



▲モノレールは見晴らしも最高！！

すを押すスタッフと利用者さんの前に傘を持った男性が現れ、駅まで一緒に傘に入れてくれました。

おかげで利用者さんは少し濡れただけで済みました。モノレールに乗る際には、車いすの車輪をあげるのを手伝ってくれた方もいました。天候こそ恵まれませんでした。が、心温まる瞬間と出会いました。

また、缶つぶしの作業中、ご近所の方がアルミ缶を持ってきて下さるようになり挨拶を交わすことも増えました。

広報配りや資源回収中、「どちらの事業所の方ですか？」「暑い中、お疲れさま。ありがとうございます」と声をかけてくださることもあります。仕事を通して自分達の存在を知ってもらおう事が、地域との関わりにもつながっていくのだと感じました。これからも、街に出て素敵な瞬間に出会えるのを楽しみにしたいと思います。



▲今日も缶つぶしの音が響きます。

仕事の中で

活動センターかなえの仕事で、フリーペーパー情報誌『ぱど』の配布仕事があります。配布地域は、学園町2丁目と南沢の一角のお宅を周って配っています。まず、『ぱど』がかなえに届くとチラシをみんなで折り込んでいきます。折れたら、50部から100部を持って、午前と午後に分けて配っていきます。



▲「一部ずつ丁寧に」



両手で慎重に

←市から委託されている除草作業。

↓情報誌配布作業。



一軒一軒、お邪魔をしてポストに投函をしていきます。配っていると近所の方から挨拶をしてもらったりすることも増えました。利用者の方も、笑顔でコミュニケーションを楽しんでいます。

暑い日や寒い日、雨の日にもカッパを着ながら配っています。途中休憩を挟みながら、1時間ほど配ります。「ぽど」配りを通じて、近所の方々にかなえの仕事内容を知ってもらおう事や、少しでも施設を身近に感じてもらうよう、今日も出かけていきます。

つながる

のぞみの家のたんぽぽ班は牛乳パックを回収する仕事をしています。その回収先として、「あそか保育園」があります。かれこれ10年以上通わせていただいています。

門を開けると、職員室の先生方が直ぐに気付いてくれ、パックを利用者に手渡しして下さいます。いただいたパックは園の敷地内をお借りしてそれぞれのカバンに詰めて帰ります。元気な子どもが「ねー！誰ですかー？何してるのー？」と話しかけてくれます。「たんぽぽ班です！みんなが飲んだ牛乳のパックを集めるお仕事をしています！」と答えると「えー！私達もたんぽぽ(組)だよー！」と屈託の無い笑顔が返ってきました。純粋な子ども達の目には働く利用者の姿はどんな風に映っているのかな？などと考えてしまっていたこちらの心配を一機に吹き飛ばしてくれた瞬間でした。

園長先生はいつも作業の手を休めて傍に来てくれ、利用者一人ひとり名前を呼んで下さいます。気さくに声を掛けられ、利用者は照れ笑いしながらも、いつも以上に張り切ってパックを入れています。



▲「一枚ずつ丁寧に」



子ども達の利用者に向けられる温かい眼差しは園長先生をはじめ先生方が利用者を理解し温かく迎え入れていただいているお蔭だと感謝しております。

あそか保育園の門が、地域と利用者との壁では無く、温かい心の交流の扉であることを確信しながら、今後もつながりを大切に育んでいきたいと思えます。



活動センターかなえ
4月から新しいなかまが2名加わりました。清瀬特別支援学校を卒業した「伊藤史也さん」(右)と「満園(みつぞの)晃大さん」(左)です。4月にはみんな歓迎会を行ない、いまではすっかりとかなえに馴染んでいる様子です。

イロイロイロ 仲間たち (活動報告)

いなか
7月後半から学校も夏休みとなり、このみでは夏活動を行いました。朝食は子ども達と一緒に毎日作りました。メニューはカレー、冷やし中華、天津飯、ホットドッグ等、子ども達も大好きなメニューです。
「僕は買い物に行く」「私はトマトを切りたい」「きのこ苦手だけど食べてみようかな」「皆で食べるとパーティーみたい」等、夏休みを通し、様々なことを経験し、子ども達の沢山の気持ちに触れることができました。



▲みんなで作って食べると美味しさもUP!!



▲絵を見て、お昼を食べてきました。

のなかの家
毎年夏になると、東京都障害者総合美術展が開催されます。
今年には西村円さんの「桜」と、渡辺行教さんの「さくら」が力強さと若々しさとあざやかさをこめて「」が入選しました。入選者を含む4名で展示された絵を池袋まで見に行きました。自分の絵が飾られているのを見ると非常に嬉しそうに、誇らしげな表情になります。
この1枚の絵を通して、力強い利用者さんの姿がどれだけの人に届くでしょうか？みなさんの思いのこもった絵をこれからも地域、社会に羽ばたかせていきたいです。

連載 がんばれ イリアンソス!

「のぞみの家とあそか保育園のつながり」
社会福祉法人 慈光会 あそか保育園 園長 石井ユミ子 さん

あそか保育園は久留米西団地の中央児童公園に隣接し、近くに黒目川の河川敷があるなど自然に恵まれた環境の中にあります。昭和45年に開園し、47年の歴史がありますが、平成13年に今の建物に全面改築しています。定員110名のお子様をお預かりすると共に、一時預かり事業なども行

関先に出てご挨拶をするのですが、皆さんとてもお元気で私自身たくさんのパワーを頂いています。職員の方の対応もいつも温かく丁寧で、同じ福祉施設で働く者として頭が下がり、私も見習わなければと日々感じています。

っている児童施設です。私は平成18年より園長職をしておりますが、のぞみの家との関わりも丁度時期を同じく、かれこれ10年以上経とうとしています。のぞみの家のたんぽぼ班の皆さんが地域を回って牛乳パックの回収をしておりますが、あそか保育園にも回って来て下さるようになりまし

話が変わりますが、のぞみの家とお付き合いを始めてから「イリアンソス」とはどのような意味があるのか疑問に思い調べたところ「ひまわり」という意味が分かり、なるほど施設の前の素敵なモザイクはその象徴なのだとわかりました。実はあそか保育園の名前の由来も花からとっています。当法人はあきる野市にあるお寺が運営しており、法人には6つの姉妹園があります。

た。保育園では子ども達のおやつに牛乳を飲みますので、毎日のようにたくさんの牛乳パックが使われます。また、保護者の方にもご協力頂き、ご家庭で使われた牛乳パックを園に持って来て下さるようになりまし

「あそか」の由来は、お釈迦様がお生まれになった時にその周りに咲いていたが「アショカ」という花で、「アショカ」の言い回しが「あそか」になったと聞いております。同じお花からとったお名前ということで親近感を持ちました。

たんぽぼ班の皆さんはご自分で歩いてきたり、職員の方が車いすを押したりして来て下さいます。皆さんがいらつしやると玄

平成29年3月に社会福祉協議会の主催で市内の社会福祉法人の方が初めて集まり、

その時にイリアンソスの理事長先生にもお会いしました。地域の公益活動実施の取り組みで高齢、障がい、児童の施設の方が集まり、各施設の現状などの情報交換をいたしました。

福祉の世界に生きていく私達ですが、今まではお互いのことが分からない状態にあったように思います。

これからは地域の福祉の発展に向け、つながりを大切にし、何ができるか考えて行かなければいけないと感じました。イリアンソスの「ひまわり」とあそかの「アショカ」、お花は人々に明るさと癒しを与えるものです。これからもお互い理解を深め、交流の場を持ち、福祉の発展、向上に努めていきたいと思えます。



法人行事

『イリアンソス後援会 大バザー』

日時…2017年10月7日(土) 10時～14時

場所…滝山団地センター

※悪天候時は中止。延期日なしです。

ご寄付をいただきました(7月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございます。誠にありがとうございました。いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

梅原 雅子 様
藤田 祐子 様

ありがとうございます。

職員のおみやげ…

「福祉の仕事って『虹の7K』って言われているんだって」と総合の授業で福祉を学んできた娘が教えてくれました。『3K』と言われていた昔に比べ明るいイメージになっていて驚きました。「学校でそんな授業があるんだね」と聞くと「福祉は誰もが関係のある問題だからね。今はそういう時代なんだよ!」と得意気に話す娘。母は心の中で「よしよし」とつぶやきました。ちなみに『虹の7K』とは:「期待」「希望」「感謝」「感激」「研究開発」「感動」「幸福」だそうです…。

のぞみの家 疋田史江

表紙の写真/活動センターかなえ
新入所者歓迎会と旅行の写真です。みんなで盛り上がりました。

《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・津田雪枝
中西亮太・疋田史江・秋元沙織
ホームページからはカラーで
ご覧いただけます

イリアンソス

検索

定価 一〇〇

社会福祉法人イリアンソス

- のぞみの家
東久留米市下里 2-7-18
042-473-9027
042-473-9036 (F)
nozomi@iriansos.or.jp
- 活動センターかなえ
東久留米市南沢 2-20-51
042-452-6405
042-452-6415 (F)
kanae@iriansos.or.jp
- なかまの家
東久留米市中央町 2-1-47
042-472-7130
042-444-3722 (F)
nakama@iriansos.or.jp
- 生活寮「うみ」「そら」
東久留米市下里 4-2-7
042-476-3400 (F兼)
sora@iriansos.or.jp
- 生活寮「にじ」「かぜ」
東久留米市下里 5-10-10
042-420-9943
kaze@iriansos.or.jp
- このみ
東久留米市幸町 3-8-23
042-473-9667